
 DBCOPY(DOC) ファイル名のリスト ;

機能 :

実際のデータバンクファイルは異なるコンピュータ間では互換性はありません。そこで、DBCOPYを使ってTSPデータバンクをあるコンピュータから別のタイプのものへ移動するのを可能にします。このコマンドはTSPデータバンク機能があるほとんどのシステムで利用することができます。

使用法:

DBCOPYの後に移動するTSPデータバンクの名前を続けます。TSPコマンドとデータが入っているファイルがそれぞれのデータバンクごとに作成されます。このファイルを別のコンピュータに移してTSPを起動すると、データバンクはもとの変数と値で作成されます。TSPコマンドにあるファイル名は、そのファイルタイプが.TLBでなく、.TSPであること以外は、データバンク名と同じになります。.TSPファイルはそのレコード長が最大80ですので、簡単に他のコンピュータへ移動することができます。データバンクのサイズ、系列のSMPL, FREQ, それにTSP変数のタイプ(CONST, PARAM, SERIES, MATRIX, FRML, IDENTが可能)についての制約はありません。SMPLとFREQは現在のSMPLとFREQではなく、データバンク内の系列によって決定されます。

オプション:

DOC/NODOCはDOCコマンドによって作成された文書のリストを行うか否かを指示します。TSPバージョン4.1以前で使用していたコンピュータにデータバンクを移動したい場合は、NODOCを指定して下さい。

例:

XとYという2つの時系列と、Bというパラメータが入っているFOO.TLBというデータバンクがあるとします。このときコマンド

```
DBCOPY FOO;
```

はFOO.TSPというファイルを作成し、その内容は次のようになります。

```
? Re-creat TSP Databank
? FOO.TSP
END; OUT FOO;
PARAM 3.14;
FREQ Q;
SMPL 60:1 85:4;
READ X;
1 2 3 4 ... ;
READ Y;
11 22 33 44 ... ;
```